

名寄市地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

概要

名寄市は人口の減少やマイカーの普及等により、市内路線バスはいずれも利用が低迷し、また、交通空白地域もあり、少子高齢化による市民の交通手段の維持・確保が課題となっている。

このため、市内バス路線の見直しや農村部と市街地を結ぶコミュニティバス・乗合タクシーの導入、一般住民混乗によるスクールバスの活用等の調査検討を実施する。

名寄市生活交通ネットワーク計画の目標・効果

名寄市郊外部では、定時定路線型の路線バスでは、非効率的な運行となり、また、交通サービスレベルも低いと考えられる。さらに高齢者はバス停留所までの距離に対して移動負担を感じており、デマンド型交通の導入によって、交通空白地域を解消するとともに、「買物」や「通院」などの日常生活に必要な「地域の足」を確保していく。

【具体的目標】

デマンド型交通の利用者数の向上 150人/月

デマンド型交通の満足度の向上 60%以上

平成25年度事業概要

- ・平成23年11月1日から定期路線バス路線を廃止し、デマンドタクシーとして運行開始。
- ・「デマンドタクシー」とは、住民の皆さまの生活交通の利便性を高めるため、予めお電話などで予約を頂いた「対象エリア」の方々を乗合タクシー方式で、自宅から、順番にそれぞれの「指定場所」まで送迎するものです。
- ・1日9便（往路、7時30分、8時45分、10時、13時15分の4便、復路、11時、12時15分、14時15分、15時30分、17時30分の5便）の運行で、運賃は、利用地域別料金で300円から800円で高校生以下は利用料金半額となります。
- ・対象エリアは、共和、豊栄の一部、風連豊里の一部、下多寄、西風連、風連2区の一部で、指定場所は現在、市内37箇所。

地域公共交通の現況

- ・JR宗谷本線（名寄、風連、東風連、日進、北星、智恵文、智北駅）
- ・名士バス株（市内線6路線、郊外5路線）
- ・道北バス株（郊外2路線）
- ・士別軌道株（郊外2路線）
- ・JR北海道バス株（郊外1路線）
- ・北海道中央バス株（都市間バス1路線、共同運行）
- ・スクールバス（6路線）

名寄市地域公共交通確保維持改善協議会開催状況

24年6月22日 第1回協議会を開催
主な協議事項：コミュニティバスの実証運行について

25年3月27日 第2回協議会を開催
主な協議事項：コミュニティバスの次年度実証運行について、「下多寄デマンド運行」について

平成25年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

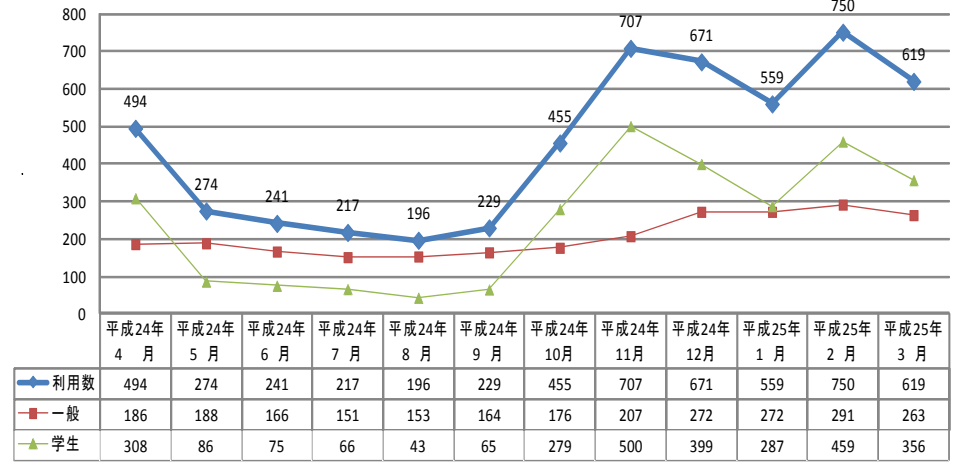
デマンド型交通の導入について、地域住民になじみのないシステムのため、地先説明会や試験運行の実施による乗車確認等の対応、PRチラシ等による周知活動の徹底。利便性に考慮し、住民が多く利用する駅、公共施設、病院、学校、デパート等を指定場所として登録した。

2) 運行ルート



3) 利用実績

下多寄線デマンドタクシー利用実績



4) 収入実績

下多寄線デマンドタクシー 収入実績

年月	一般	学生	計	走行日数	利用料金
平成24年 4月	186	308	494	26	126,750
平成24年 5月	188	86	274	27	88,910
平成24年 6月	166	75	241	27	73,230
平成24年 7月	151	66	217	30	79,300
平成24年 8月	153	43	196	27	65,360
平成24年 9月	164	65	229	28	84,200
平成24年 10月	176	279	455	31	174,750
平成24年 11月	207	500	707	27	165,750
平成24年 12月	272	399	671	30	132,950
平成25年 1月	272	287	559	27	162,440
平成25年 2月	291	459	750	28	144,300
平成25年 3月	263	356	619	31	115,600
計	2,489	2,923	5,412	339	1,413,540

5) 事業実施の適切性

本事業対象地域は、住居が低密度に分散しているため、公共交通機関を利用しづらい地域、いわゆる交通空白地域であり、高齢者の居住も多い地域である。

定期定路線型の路線バスでは、非効率的な運行となり、高齢者にとっては、バス停までの距離に対して、移動負担を感じており、デマンド型交通の導入によって、交通空白地域を解消するとともに「買物」や「通院」などの日常生活に必要な「地域の足」を確保できたと考えている。

6) 目標・効果達成状況

・デマンド型交通の利用者数の向上

目標 150人/月→月平均利用者数 451.0人

交通空白地域の解消をするとともに、高齢者のバス停までの移動負担を軽減し、「買物」や「通院」などの日常生活に必要な「地域の足」を確保する目的で、デマンド型交通を導入した。冬期間のみならず、通年での利用があったことから、効果が達成できたと考える。

・デマンド型交通の満足度の向上

目標 60%以上

25年度下半期にアンケート調査において、満足度の効果を測定する予定。市民からの評判も良く一定の効果は達成される見込み。

7) 事業の今後の改善点

デマンド運行導入後から1年が経過し、一定の効果が見込まれたところであるが、今後も利用者ニーズを把握し、運行経費との関係も考慮しながら、運行時刻の見直し、市内の指定場所の追加等について検討する必要がある。

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、適切に事業が実施されている。
- ・利用者からの評価は今後調査するとのことだが、目標を大きく超える利用者からすれば、地域に適した交通体系が構築されたと評価出来る。
- ・現状の実績を踏まえたより高い目標値の設定と利用実態に即した見直し等都度検証するよう期待する。